

創徳中学校通信



短歌の交流が始まって 13年目を迎えました

2011年3月11日14時46分、宮城県沖を震源とするマグニチュード9.0の地震が発生しました。これにより東北地方を中心に北関東にも被害が及び、地震による揺れの被害のみならず、大津波、火災などで2万2000人を超える死者・行方不明者が発生しました。

当時、私は神戸中学校に勤めていました。ちょうど掃除の時間だったと思います。エレベーターに乗っているような不思議な感覚でこの揺れを感じたのを覚えています。

本年度も3月11日に生徒・職員全員で黙とうを捧げこの震災で犠牲になった方のご冥福を祈るとともに、避難訓練・防災学習を実施しました。また、2学期には第3学年において女川中学校との短歌交流の取組を行いました。

この女川中学校との交流の始まりは、東日本大震災が起こった平成23年夏に、女川中学校の20名の生徒が鈴鹿市で一週間ホームステイをし、市内中学生と交流したことがきっかけです。

平成24年度から、女川中学校と鈴鹿市内の全中学校で俳句・短歌を通じた交流が始まり今に至ります。

また、この日になると思出すのが、これも神戸中学校に勤務していた時のことです。朝、同僚の先生が「須藤先生、これ胸が詰まりますね」とある新聞記事を私に見せてくれました。それは、「震災刻む31文字 気仙沼高文芸部 心の軌跡」という記事でした。紹介します。

見つからない友を想って泣いたのは やっと四月の中頃だった

宮城県気仙沼市の気仙沼高校の文芸部員が東日本大震災を主題に短歌を詠んでいる。がれきの街を歩き、なくした家族や同級生への思いをつづる三十一文字。時に押しつぶされそうになりながら震災と向き合ってきた心の軌跡をくっきり映し出す。部活の一環として取り組んできた短歌づくりを震災後も続けている。(中略)

冒頭の一首は畠山海香さん(二年)のうた。四月初め、友人が行方不明と知った。「びっくりして、まだ『悲しい』まで考えられなくて」二週間たったある夜、突然涙が込み上げてきた。同居の祖父をなくした。元気な、よく冗談を言う祖父だった。時期が遅れた火葬の時の心情を素直に言葉にした。

死に顔を「気持ち悪い」と思ったよ ごめんじいちゃん ひどい孫だね

何気ない日常のありがたみも知った。震災の日、いつも通り分かれた同級生と再会できたのは五月になってから。「学校来んのめんどくせーよとおもってたけど、行けるのがどんなに幸せかって」

「また明日」言葉の重みを 今知った 明日は当たり前じゃないから

わたしもこの記事を読んで胸に込み上げるものがありました。この記事(短歌)からあなた達は何を感じましたか。願わくは何かを感じられる人であってほしいです。そして、人との関わり方や日々の生活を振り返るきっかけにしてください。

たくさんのチャレンジャーに 感謝!

3月12日(水)に令和7年度前期生徒会役員選挙が行われました。今回の選挙で目を見張ったのが立候補者の多さです。定員ピッタリの立候補者数で信任投票が多い中、今回は、会長1名に対して3名、副会長1名に対して5名、執行委員4名に対して10名の立候補者が出てくれました。「当選しないかも」という不安がある中、挑戦者として名乗りを上げてくれたのです。結果は以下のようにりましたが、当選した人もそうでない人も、そしてその他の人も創徳中学校を良くしたいという思いは同じはずです。力を貸してください。そして、立候補してくれたすべての人に感謝します。ありがとう。



たくさんの選挙ポスター

【会長】 さん 【副会長】 さん



【執行委員】 さん さん さん さん

先輩、アドバイスありがとうございました

3月4日(火)にキャリア教育の一環として「ようこそ先輩」を実施しました。私立、公立前期選抜、鈴鹿高専への合格内定が決まった3年生4名が入試に向けての取り組み方や心構えの話をしてくださいました。そして、驚いたことにすべての人がChromebookで作成した資料をプロジェクターで映し、分かりやすく伝えてくださいました。そこには3年生の頼もしさと後輩のために一肌脱いでくれた優しさが感じられました。さて、1、2年生には身近な先輩の経験談だからこそストレートに心に響いたのではないのでしょうか。参考になることがたくさんあったと思います。さあ、今後どうするかはあなた達次第です。ファイト!



さん さん さん
さん ありがとうございます!

令和7年度の始業式は4/8(火)です。4/7(月)は臨時休業日でお休みです。